

上宮寺通信

第五十九号

てんしき

日本の伝統的話芸のひとつである落語は笑いや人情話で気分をほっこりと和ませてくれます。実は落語と仏教とは切っても切れない関係で、お寺でのお説教が落語の元といわれています。

江戸時代に安楽庵策伝というお坊さんがたいへんおもしろいお説教をして人気を博しました。それが現在の落語につながっているのです。笑いの中にも、ちよつと身につまされる話があり、そのあたりが仏教の教えに通じるものがあるでしょう。今回ご紹介する「てんしき」という話もそんなお話です。

村のお寺の和尚さまは物知りであることがちよつと自慢。あるとき体調がすぐれず、お医者さまに診てもらうことにしました。

お医者さまは和尚さまに向かって「てんしき」はありますか?と尋ねます。和尚さまは「てんしき」が何なのかかわからない。でも、わからないというのが恥ずかしく、さも知っているようなふりをして「今はございません」とその場を取りつくり帰ってきてしまいました。

和尚さまは帰ってから「てんしき」のことが気になって仕方ない。人に聞くのも恥ずかしいし、悔しい。そこで弟子の珍念に「お前の勉強のためだ。てんしき」を調べてきなさい」と命じたのです。

珍念は町の人にいろいろ聞いてまわり、「てんしき」が屁(おなら)であることを教えてもらいます。でも、ここで珍念

は「ははあ、和尚さまは恥ずかしくて人に聞けないから私を使って調べさせたのだな。ちよつといたずらをしてやるか」と、あることを思いつきます。

珍念は寺に帰り、和尚さまに「てんしき」とは 盃(さかずき)のことでした」とウソの報告をします。和尚さまは「そのとおりじゃ。てんしき」とは呑む酒の器で呑酒器(てんしき)、つまり盃のことじゃ」と、うんうんとうれしそうに頷きます。

和尚さまはさつそく寺にある自慢の盃を桐の箱に入れてお医者さまのところへ持っていきま

す。「てんしき」を持ってききましたぞ!と得意気に桐の箱を開けますが…。

本当はわからないのに恥ずかしくて「わからない」と言えない。年齢を重ねれば重ねるほどそんなことがよくあります。まさに自分のことを言い当てられているようなお話です。



◆行事案内

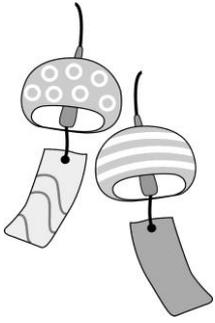
DE

7月18日(火) 14時開演
上宮寺本堂にて
限定15席
ひとり五〇〇円
申込は上宮寺まで。

◆話題あれこれ

○お盆(盂蘭盆会)法要を上記のとおり行わせていただきます。ご都合のつく時間にお参りください。一軒ごと個別にお経をあげるのではなく、同時集まった皆様と一緒に、お経をあげる総経でおつとめしますのご了承ください。

お盆(盂蘭盆会)法要
8月13日(日)・14日(月)
午前9時〜午後3時(両日とも)
場所…上宮寺本堂
※ご都合のつく時間にお参りください。



○7月18日(火)午後2時より上宮寺本堂にて、登龍亭獅鉄さんの落語会があります。それもありまして、今回は落語ネタのオモテ面にしてみました(演目に「てんしき」があるかどうかはわかりません)。

○落語会にもぜひご参加ください。

○新型コロナ感染者もじわりと増えている模様。夏かぜ、インフルエンザの流行もあり、体調不良を訴える人も多いみたいです。体調管理には十分お気を付けてください。

○お参りの際のマスク着用については各自の判断でお願いいたします。

○仏事について、わからないことがありましたら、どんなことでもご相談ください。

【雑感】

付近でイタチが出没するようになりました。まだ一回しか遭遇していませんが、どうやら子どももいるらしい。写真で見るとかわいい顔をした動物なのですが、家に住みつかれると厄介みたいです。屋根裏などでフンをして、その臭いや腐食などの被害に悩まされるとのこと。そんな動物ならばとっ捕まえてしまえ!と思ってもそうはいかないらしい。法律で保護されているイタチにひどいことをするとこちらが捕まってしまうのです。周りに緑の少ない住宅地にどこからやって来たのでしょうか? (住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号
☎052-871-0547